

〇〇学級 自立活動学習指導案

障害種を記載

令和〇年〇月〇日 ()校時
 〇〇〇立〇〇〇学校〇〇〇組
 〇名(〇年：〇名、〇年：〇名)
 授業者 〇〇 〇〇

学級構成が見えるようにする

1 題材名 「伝える楽しさを感じ合おう」

題材名を見てどんな活動をするのかを把握できるように記載する

2 題材について

(1) 児童(生徒)の実態 ※自立活動の内容(6区分 27項目)の記載

児童(生徒)	児童(生徒)の実態	区分	項目
児童 A (生徒 A)	・順位や勝つことにこだわり、思い通りにならないと自分を責めてしまう。	心理的な安定	(2)状況の理解と変化への対応に関する事
	・周囲の状況や雰囲気を考えずに、自分の思いのままに行動する。		(1)他者とかかわりの基礎に関する事
	・簡単なルールは理解して、きちんと守ることができる。	人間関係の形成	(3)集団への参加の基礎に関する事
児童 B (生徒 B)	・順番や勝つことにこだわり、思い通りにならないと、すぐに泣いてしまう。	心理的な安定	(2)状況の理解と変化への対応に関する事
	・話を最後まで聞かずに行動してしまうことがある。		(1)コミュニケーションの基礎的能力に関する事
	・相手の様子や気持ちを考えないで話すことがある。	コミュニケーション	(2)言語の受容と表出に関する事
児童 C (生徒 C)	・思い通りにならないと、途中であきらめてしまうことがよくある。	心理的な安定	(2)状況の理解と変化への対応に関する事
	・周りを気にせずに、マイペースで行動する。		(1)他者とかかわりの基礎に関する事
	・一通り説明すれば、ルールの理解はできる。	人間関係の形成	(3)集団への参加の基礎に関する事

本授業で対象とする児童(生徒)の実態と、それに関する自立活動の内容(6区分 27項目)を記載する。また、児童(生徒)の長所やよさも記載する

(2) 題材設定の理由

本題材は、児童が人とかかわる楽しさを十分に味わいながら、自分の思いや考えが相手に伝わる喜びを体験することを意図している。

本時では、児童が親しみをもちやすいゲーム「3ヒントクイズ」を取り入れる。ヒントを考える際、色や形・大きさなどの特徴を短い言葉で表現したり、ジェスチャーを用いたりしながら、相手に分かりやすく伝える工夫をする。このような体験を通して、自分の考えを他者に伝える喜びを味わうことができる。また、話し手の言葉やジェスチャーからヒントをつかみ、自分の考えた答えが相手と一致した時には、その喜びを他者と共有できる。そのため、児童の実態を考慮した効果的な学習活動が期待できる題材だと考える。

本題材を選んだ意図やその活動を通して期待される効果を記載する

(3) 指導について ※ICT(1人1台端末)等の活用も含む

楽しく意欲的に活動できるようなゲーム「3ヒントクイズ」を取り入れることで、児童がコミュニケーションを通して、他者とかかわることの楽しさを十分に味わうことができるようにする。また、伝える手段も言葉だけでなくジェスチャーも使うなど、抵抗なく課題に取り組めるようにする。さらに、自分の考えを整理する際には、自分が何を伝えたいのかを整理して話すことができるような話型を活用することで、正しく伝える体験を積み重ね、達成感を味わわせたい。ゲームはポイント制にして勝敗を決めることで、自己を抑え、状況を受け入れた行動がとれるようにする。

このような学習を通して、楽しくコミュニケーションを図ろうとする意欲をもたせ、よりより人間関係の形成の基礎を育てたい。

本時で取り扱う題材の特長を生かして、児童(生徒)の日常生活や学習場面で生じる改善・克服をめざす支店で記載する

3 児童(生徒)の特性に配慮した指導の工夫 ※ICT(1人1台端末)等の活用も含む。

児童A (生徒A)	簡単なルールは理解してきちんと守ることができるので、活動を行う前には内容を事前に伝え、安心して活動ができるようにしている。
児童B (生徒B)	いろいろなことに興味があり、説明を最後まで聞かずにすぐに活動に入ってしまう、何をしたらいいのかわかってしまうことがある。このことによる失敗をなくすために、活動内容のポイントをホワイトボードにメモしておき、いつでも見られるようにしている。
児童C (生徒C)	周りを気にせずに、マイペースで行動することが多いが、取り組んでうまくいくときはしっかり集中して最後までがんばることができる。そういう時のために、C児用の活動スケジュールを用意している。

日常的に行っている支援や本時のために行った工夫などを合理的配慮の視点から記載する例) 具体物を準備して～、
写真や動画などの視覚教材を使うことで～ 等

4 本時の活動

(1) ねらい

- ① 全体目標 ◎3ヒントクイズを通して、他者とかかわる楽しさを味わうことができる。
- ② 個人目標

児童A (生徒A)	○自分の思いや考えを分かりやすく伝えることができる。(観察・自己評価) ○気持ちのコントロールができるようになる。(観察・発表)
児童B (生徒B)	○ルールを理解して、守ることができる。(観察・自己評価) ○気持ちのコントロールができるようになる。(観察・発表)
児童C (生徒C)	○相手の気持ちも考えながら、自分の気持ちも伝えることができる。(観察・自己評価) ○楽しんで最後まで参加する。(観察・発表)

特別支援学級の自立活動の指導では、学級の児童(生徒)の在籍状況によっては個別による指導の形態をとることが難しく、集団での指導にならざるを得ない状況がある。そのため、本時目標を記載する際には集団での全体目標だけでなく、集団の中の個々の児童(生徒)にねらう個人目標も明記する

(2) 展開

過程	学習活動	指導上の留意点(◆) 個への対応(◇) 評価(○)		
		児童A(生徒A)	児童B(生徒B)	児童C(生徒C)
つかむ ()分	1 はじめのあいさつをする。 2 分かりやすく伝えるために大切なことを確認する。	◇姿勢を意識し、日直の号令に合わせて元気よくあいさつするように促す。	◇周りをよく見て、元気よく号令をかけるように促す。	◇姿勢を意識し、日直の号令に合わせて元気よくあいさつするように促す。
		○「相手への分かりやすさ」をイメージできるように、「だらだら言葉」と「すっきり言葉」を提示する。 ○特徴(大きさ、色、形)をすっきり言葉やジェスチャーで伝える。		
見通す ()分	3 本時のめあてを確認する。 4 ルールを確認する。	◎大事なことを落とさないで聞く。	◎話を最後までしっかり聞く。	◎手遊びなどをしないで集中して聞く。
		○「3ヒントクイズ」の手順を説明する(教師のデモンストレーション)。 ・カードを選ぶ→3ヒントを考える→発表して答える ○1ヒントにつき、1人1回答えることができる。 ○ヒントが多くなるにつれてポイントが減る。 ○ポイントの合計で勝敗を決める。		
活動する ()分	5 「3ヒントクイズ」をする。	◎話の内容をきちんと理解して、活動することができる。 ◎すっきり言葉になおして相手に分かりやすく伝えることができる。	◎話を最後まで聞き、ルールをしっかり守って活動できる。 ◎事物の特徴をとらえて、相手に分かりやすく伝えることができる。	◎途中であきらめないで最後まで活動に楽しく参加する。 ◎事物の特徴をとらえて、相手に分かりやすく伝えることができる。
		○ヒントが考えられないときには、一緒に考えて支援する(すっきり言葉に直す)。 ○必要な子には、ヒントになりそうな言葉を提示する。 ○答えが一致(正解)した相手とハイタッチをする(喜びを共有する)。		
振り返る	6 感想を発表する。	○本時の活動を振り返る視点を提示する。 ○「楽しかったとき」「くやしかったとき」「がんばったとき」などのそれぞれの場面に応じた発表カードを提示する。		

() 分		<p>◎自分の考えや気持ちを分かりやすく伝えることができる。</p> <p>◎勝ったことだけにこだわらず、自分の気持ちをコントロールできる(マイナス言葉を出さない)。</p>	<p>◎相手の気持ちも考えながら、自分の気持ちを伝えることができる。</p> <p>◎勝ったことだけにこだわらず、自分の気持ちをコントロールできる(マイナス言葉を出さない)。</p>	<p>◎相手の気持ちも考えながら、自分の気持ちを伝えることができる。</p>
----------	--	---	---	--

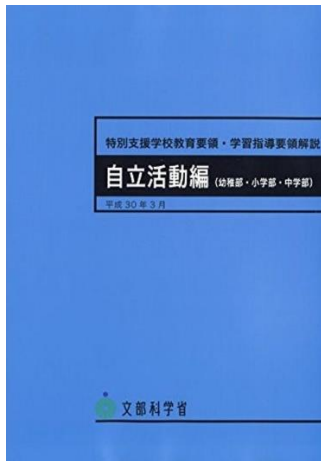
実際の指導が、設定した指導目標(ねらい)に沿ってどのように行われたのか、また、全体そして個々の児童(生徒)の指導目標(ねらい)が達成されたのか、何が課題として残ったのかをおさえることは、次時の指導につなげたり改善したりするために重要である。そのため、評価の観点は本時の目標に位置付けた全体目標や個人目標に基づいて設定する。

(4) その他(準備物、ICT 端末、環境設定、教材・教具の工夫、板書計画など)

授業で使用するものを箇条書きで記載する

<引用・参考文献>

自立活動の授業を組み立てる際の参考となる資料



『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編(平成 30 年 3 月)』

(文部科学省)

28～31 頁では、児童生徒の実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れが例示されています。

128～P171 頁では、各障害種の実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れが記載されています。



『自閉症のある子どもの自立活動の指導について考えよう！リーフレット(令和 2 年 5 月)』(国立特別支援教育総合研究所)

自閉症のある子どもの実態の捉え方と自立活動の指導目標及び指導内容の設定にかかわる考え方が、具体的な例示をもとにわかりやすく解説されています。